

今すぐにはではないが 3 ヶ月以内には禁煙したい喫煙者にもバレニクリンは有効

喫煙者のなかには、すぐには禁煙できないが、少しずつ減煙して最終的には禁煙したいと考えている人もいる。そこで本研究では減煙にバレニクリンを使用することの安全性や禁煙への効果について検討した。

2011 年 7 月から 2013 年 7 月にかけて、10 ヶ国 61 施設において 1 ヶ月以内に禁煙の意思はないが、3 ヶ月以内には減煙や禁煙の意思がある 1,510 例を対象に二重盲検ランダム化対照試験を実施した。被験者をランダムに 2 群に分け、一方にはバレニクリン (1mg、1 日 2 回投与) を 24 週間、もう一方にはプラセボを投与した。目標は 4 週までに 50%以上、8 週までに 75%以上の減煙、そして 12 週までに禁煙とした。その結果、15~24 週の禁煙率はバレニクリン群がプラセボ群に比べ、有意に高率であった (32.1% 対 6.9% ; 相対リスク 4.6)。さらに禁煙継続率もバレニクリン群がプラセボ群に比べて有意に高かった (21~24 週では 37.8% 対 12.5% ; 相対リスク 3.0、21~52 週では 27.0% 対 9.9% ; 相対リスク 2.7)。重篤な有害事象の発生率はバレニクリン 3.7%、プラセボ群 2.2% (p=0.07) であった。

今回の研究により、1 ヶ月以内にとはいかないが、3 ヶ月以内に減煙や禁煙をしたいという意思のある喫煙者に、バレニクリンを 24 週間投与すると、プラセボに比べて有意に禁煙率が上昇し、1 年後の禁煙継続率も高率が維持されることが示された。バレニクリンは、臨床ガイドラインの対象外のすぐに禁煙する意思のない禁煙希望者にも治療オプションとなる。

出典 : Journal of the American Medical Association. 2015; 313(7): 687-694